

ふ どう いん いわ や どう  
国指定重要文化財 不動院岩屋堂

### 【交通アクセス】

- 自家用車 中国道山崎ICより、国道29号を鳥取方面へ、約80分  
鳥取駅より国道29号を戸倉峠方面へ約60分
- 鉄 道 鳥取駅より若桜鉄道若桜行で終点若桜駅下車(約45分)  
若桜駅前よりバス吉川・落折行で岩屋堂下車(約10分)、徒歩すぐ
- バ ス 鳥取駅より若桜行で若桜駅前下車(約60分)、吉川・落折行に乗車



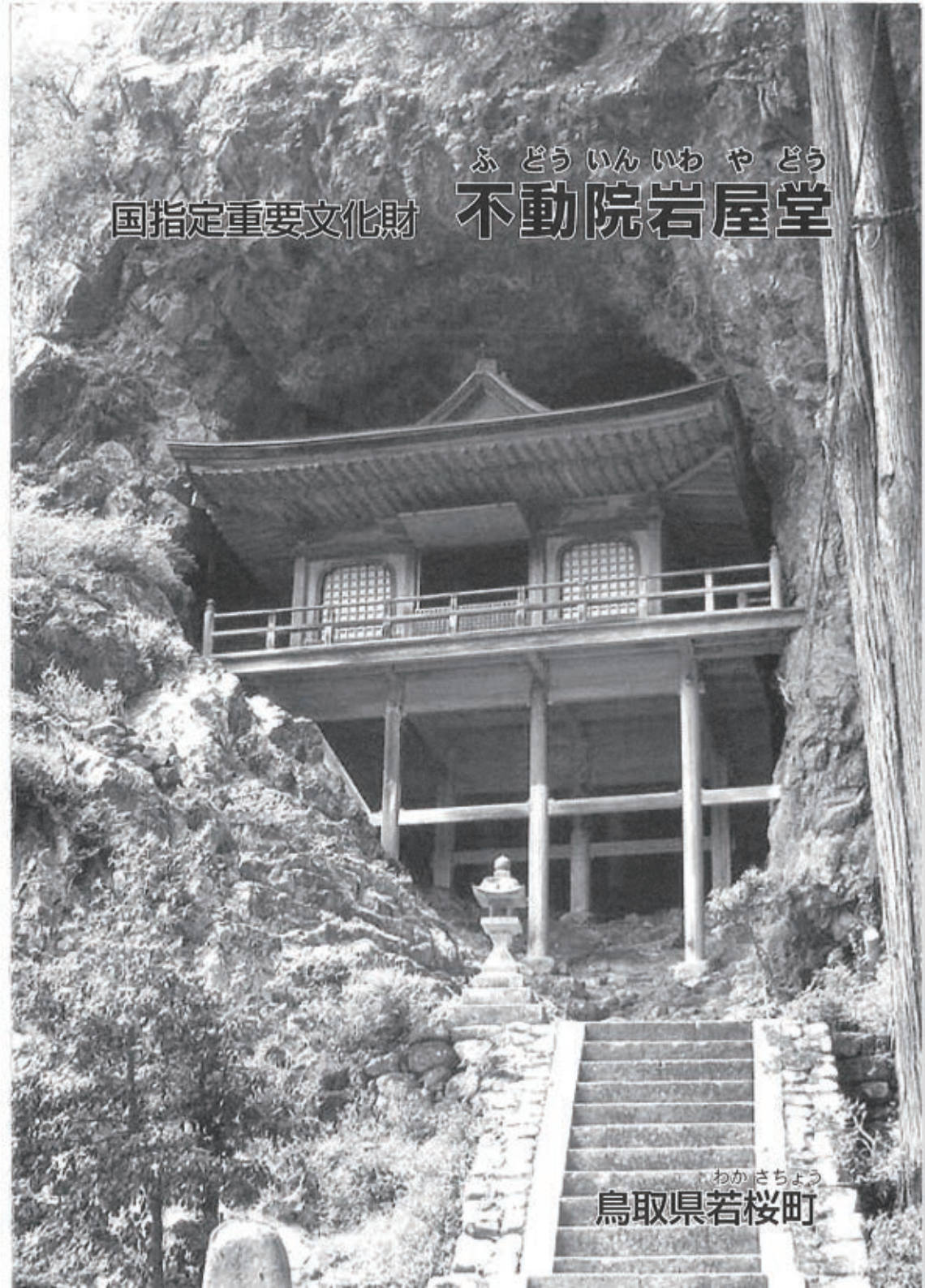
### お問い合わせ先

#### 若桜町教育委員会

〒680-0701 鳥取県八頭郡若桜町若桜757  
TEL : 0858-82-2213 FAX : 0858-82-1045  
e-mail: kyouiku@town.wakasa.tottori.jp

#### 若桜町観光協会

〒680-0701 鳥取県八頭郡若桜町若桜341-1  
TEL : 0858-82-2237 FAX : 0858-71-0221



わかさちょう  
鳥取県若桜町

## 国指定重要文化財 不動院岩屋堂の由来

不動院岩屋堂は若桜宿内から戸倉峠方面へ約5km、八東川と吉川川の合流点にある岩屋堂集落に所在する。身舎は正面・奥行ともに3間(約5m)の平面規模で、天然の岩窟からせり出すように建つ懸造かけづくりが大きな特徴である。屋根は前方が入母屋造、後方が切妻造の翹葺かへりづみづりとなっている。鳥取県内では数少ない中世の寺院建築であることから、昭和28(1953)年、国指定重要文化財となった。

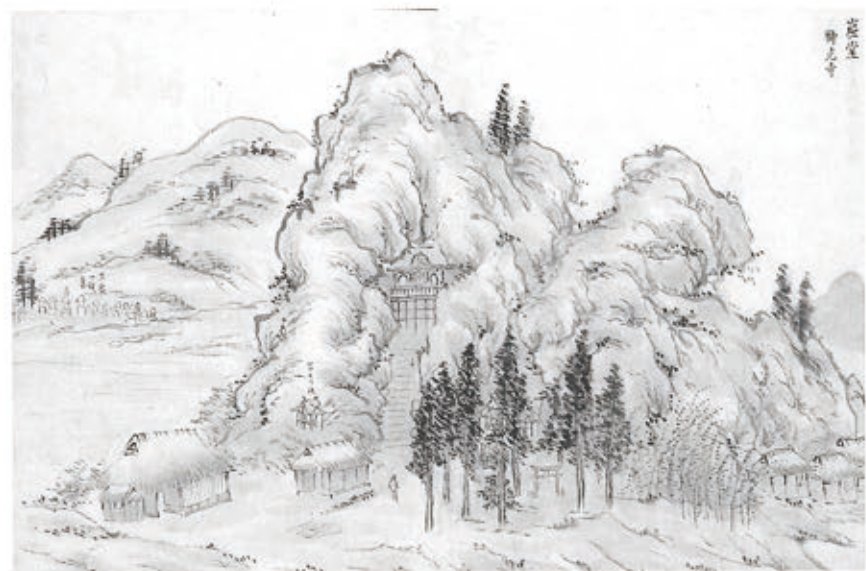
岩屋堂の縁起について、岩屋堂集落所有の『書上帳』などによると「大同元(806)年之創立ニシテ、弘法大師彫鑿ノ不動尊体ヲ安置シ、弘仁10(819)年4月七堂伽藍ヲ建設シ…」とある。本尊不動明王坐像についても、弘法大師が33歳の時に彫刻されたもので、因幡の黒皮不動と呼ばれている。これは、東京にある目黒・目赤の両不動とともに日本三大不動といわれているが、確証となる資料は発見されていない。また、伝承によると大同元年飛騨の匠が建設したもので、その後源頼朝が再興したのが現在の建物とされている。岩屋堂の本寺は妙見山みょうけんさん神光寺しんこうじといい、150石の寺領を有する大伽藍であったが、天正年間(1573~91)羽柴秀吉の因幡侵攻の際に焼失し、岩屋堂だけが焼け残ったものだという。

江戸時代末期の岩屋堂の姿を描いた書物の一つとして、鳥取県立図書館所蔵の「稲葉佳景 無駄安留記」[逸處米質著、安政5(1858)年成立]がある。書物には“巖堂 神光寺”の名で紹介され、岩屋堂を中心として岩屋神社・敦盛社・平家一族の墓の位置などが克明に描かれている。当時の岩屋堂の様子がよく分かる貴重な資料である。

この堂は昭和30年から同32年まで、解体修理が行われた。この時の修理報告書には、柱や舟肘木、華頭窓及び須弥壇じゆみだんの形式から南北朝時代の建立とされている。また、建立されてから幾度となく修理が行われており、特に安永2(1773)年の修理は軒廻り・屋根・舞台にまで及び、大規模なものであったという。したがって、解体修理を機に一部、安永の修理以前の姿に戻されている。

毎年3月と7月の第4日曜日には護摩法要が行われ、本尊の不動明王坐像が一般公開される。

(注) 懸造…急な斜面や段差のある場所に建てる場合に用いられ、清水寺本堂や東大寺二月堂が有名。舞台造とも呼ばれる。



逸處米質著「稲葉佳景 無駄安留記」巖堂神光寺の図(鳥取県立図書館蔵)